



## 世田谷少年サッカー連盟 8人制大会における統一競技会規定

本規定は世田谷少年サッカー連盟のすべての公式戦に適用する。

(都大会の予選を兼ねない試合では適用を一部緩和することがある)

(以下「世田谷の8人制統一ルール」と略称)。

以下の項目を除き、国際サッカー評議会 ( I F A B ) および日本協会競技規則に従って実施される。

### ● 競技のフィールド

- ・ 大きさ
- ・ 68m×50m を推奨するが、使用する試合会場の大きさによって、変更することも可能とする。
- ・ フィールドのマーク等・ペナルティーエリアの縦 12m
  - \* ゴールエリアの縦 4m
  - \* ペナルティーマーク (ゴールラインから) 8m
  - \* ペナルティーアークの半径 7m
  - \* センターサークルの半径 7m
  - \* 交代ゾーン 6m (ハーフウェイラインから両サイドへ 3m ずつ)

### ● ゴール少年用サッカーゴール (5m×2.15m) を推奨する。

### ● ボール 4 号球を使用する。

### ● 競技者の数

- ・ 8 人の競技者 (うち 1 人はゴールキーパー) が試合に出場する。
- ・ 前半開始時に 6 人で試合成立。 **6 人未満は試合を開始しない。**  
退場者が出た場合は交代要員の中から競技者を補充できる。
- ・ フィールドプレーヤーの交代手続
  - \* 交代によって退く競技者は、交代ゾーンからフィールドの外に出る。
  - \* 交代要員は、交代によって退く競技者がフィールドの外に出てから、交代ゾーンからフィールドに入る。
  - \* 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中に関わらず行える。
  - \* 交代について、主審の承認を得る必要はない。
  - \* 交代によって退いた競技者が、正しい交代手続を経たうえで、再び競技者としてフィールドに戻ることを認める。
- ・ ゴールキーパーの交代手続
  - \* ボールがアウトオブプレーになった時、主審に通知し主審の承認を得てから交代手続を始める。
  - \* 交代して退くゴールキーパーは、主審の承認を得て、境界線の最も近い地点からフィールドの外に出なくてはならない。
  - \* 交代要員のゴールキーパーは、主審の承認を得たのち、ハーフウェイラインのところからフィールドに入る。

\*ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが交代する場合も、ボールがアウトオブプレーになった時、主審の承認を得たうえで交代する。

### ● 競技者の用具

・ユニフォームは、原則として、日本サッカー協会ユニフォーム規程に準じる。

1着以上のユニフォーム（シャツ、ショーツ及びソックス）を試合会場に持参し、着用しなければならない。

（ユニフォームは2着以上の持参が望ましい。また、ユニフォームの色彩と異なる色のビブスを必ず持参すること。）

\*ユニフォームのデザイン、ロゴ等が異なっても、大会主管者が認める場合、主たる色が同系色であれば着用することができる。

\*ゴールキーパーのユニフォームについて、ショーツ、ソックスはフィールドプレーヤーと同系色でも良いものとする。

（シャツはビブスの代用も可、その場合フィールドプレーヤーとは異なる色のビブスにする）

\*主審は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとに、その試合において着用するユニフォームを決定する。

その場合、主審は両チームの各2組のユニフォームのうちからシャツ、ショーツ及びソックスのそれぞれについて、判別しやすい組み合わせを決定することができる。

また、1着のユニフォーム持参の場合、主審はいずれのチームが同色のビブスを着用することを決定する。

\*ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。

\*アンダーシャツ及びアンダーショーツ、タイツの色は問わない。

ただしチーム内で同色のものを着用する。

\*すねあては必ず着用する。

**※中央大会（都大会）の規定は異なるので参加クラブは都度確認して対応すること。**

### ● 審判 「審判員規程 および 基本マニュアル」を参照

### ● 試合時間

・各大会要項に記載されている試合時間に従う。

・アディショナルタイムはけがの治療と飲水タイム、クーリングブレイクのみを対象とする。

### ● プレーの開始および再開

・キックオフから直接相手のゴールに入った場合、得点を認めず、相手チームのゴールキックで再開される。

・フリーキックの場合、ボールがインプレーになるまで、相手競技者は、ボールから7m以上離れる。

・スローインの場合、相手競技者は、スローインが行われる地点から2m以上ボールから離れる。

- ・ドロップボールの場合は、ドロップボールを行う競技者以外はボールがインプレーになるまで4 m以上ボールから離れる。
- ・コーナーキックの場合、インプレーになるまで、相手競技者は、コーナーアークから7 m以上離れる。

#### ● ファウルと不正行為

- ・競技者が退場を命じられた場合、その競技者のチームはフィールドでプレーする競技者を交代要員の中から直ちに補充できる。
- ・退場を命じられた競技者、累積警告が3回となった競技者は、次の1試合を出場停止処分とする。

#### ● 前、後半が終了したものの、両チームの得点と同じ、もしくは両チームとも無得点となりながらも、

- 勝者を決定する必要がある場合の延長戦およびペナルティーマークからのキック（以下PK戦）
- ・各トーナメントの決勝および3位決定戦では、10分間（前、後半それぞれ5分）の延長戦を行う。延長戦でも勝敗を決しない場合はPK戦を行う。
- ・決勝および3位決定戦以外の試合では、後半終了後すぐにPK戦を行う。延長戦は行わない。
- ・PK戦では、両チーム3本ずつのキックを行った後、両チームの得点と同じ、もしくは両チームとも無得点の場合、サドンデスにより勝敗を決する。

#### ● ベンチ入り指導者

- ・テクニカルエリアは設置しないが、その都度、ひとりの指導者が戦術的指示を行う。
- ・都大会のブロック予選に相当する大会では常に2名以上いること。  
またそのうちD級以上の有資格者が**2名以上**（都大会は全員有資格者）いること。  
最大ベンチ入り指導者は3名とする。（都大会は最大5名）  
ベンチ入りの内1名はメディカルが入る事が出来るが、ベンチでの指導は出来ない。  
有資格者が**2名そろっていない場合**は、資格者不在の手続きを行なう。
- ・世田谷区の大会でも常に2名以上いること。  
またそのうちD級以上の有資格者が**1名以上**いること。  
最大ベンチ入り指導者は3名とする。  
ベンチ入りの内1名はメディカルが入る事が出来るが、ベンチでの指導は出来ない。  
有資格者が**1名そろっていない場合**は、資格者不在の手続きを行なう。

#### ● その他

- ・ユニフォームチェックや選手集合時間に遅れた選手はメンバー表に氏名の記載があれば、第4の審判員による用具の確認を経て出場を認める。